

長崎県内の子宮頸がん検診の実績について

〔 地域保健・健康増進事業報告(厚労省)
2024.03. 公表値より 〕

2024.12.6
長崎県保健医療対策協議会
がん対策部会子宮がん委員会

▶ 1. 子宮頸がん検診受診率の状況

- ▶ 地域保健・健康増進事業報告(厚労省)公表値によると、令和4年度(長崎県)は 18.0 %で、全国平均15.8 %を上回り、全国15位。

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
全国	31.1	32.0	23.3	16.4	16.3	16.0	15.7	15.2	15.4	15.8
長崎	39.4	41.4	33.7	18.3	19.2	18.4	18.7	18.1	17.6	18.0

算出年齢: ← 20～69歳(～H24まで「20歳以上」)

対象者: ← 「就業者数」を除外しない

※算出年齢、対象者の計上方法が年度によって変更されているので、
H27年度以前の経年的な比較はできない。

※受診率が比較可能なH28以降で比較すると、全国、長崎ともにR2・R3で減少していたが、
R4で若干回復した。

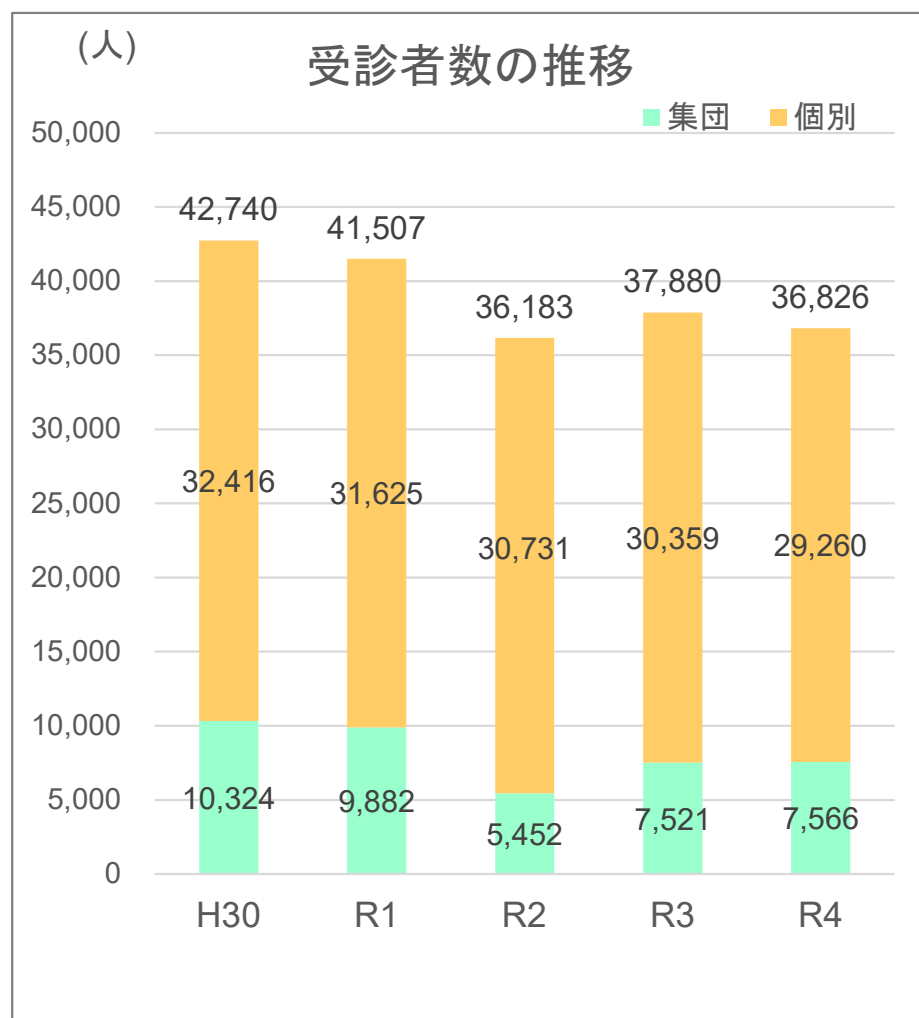
▶ 2. 子宮頸がん検診受診者数と受診率（20～69歳）

1) 受診者数の推移



受診者数は、年々減少傾向。

R2年度に大きく減少し、R3年度に若干増加したものの、R4年度はやや減少した。



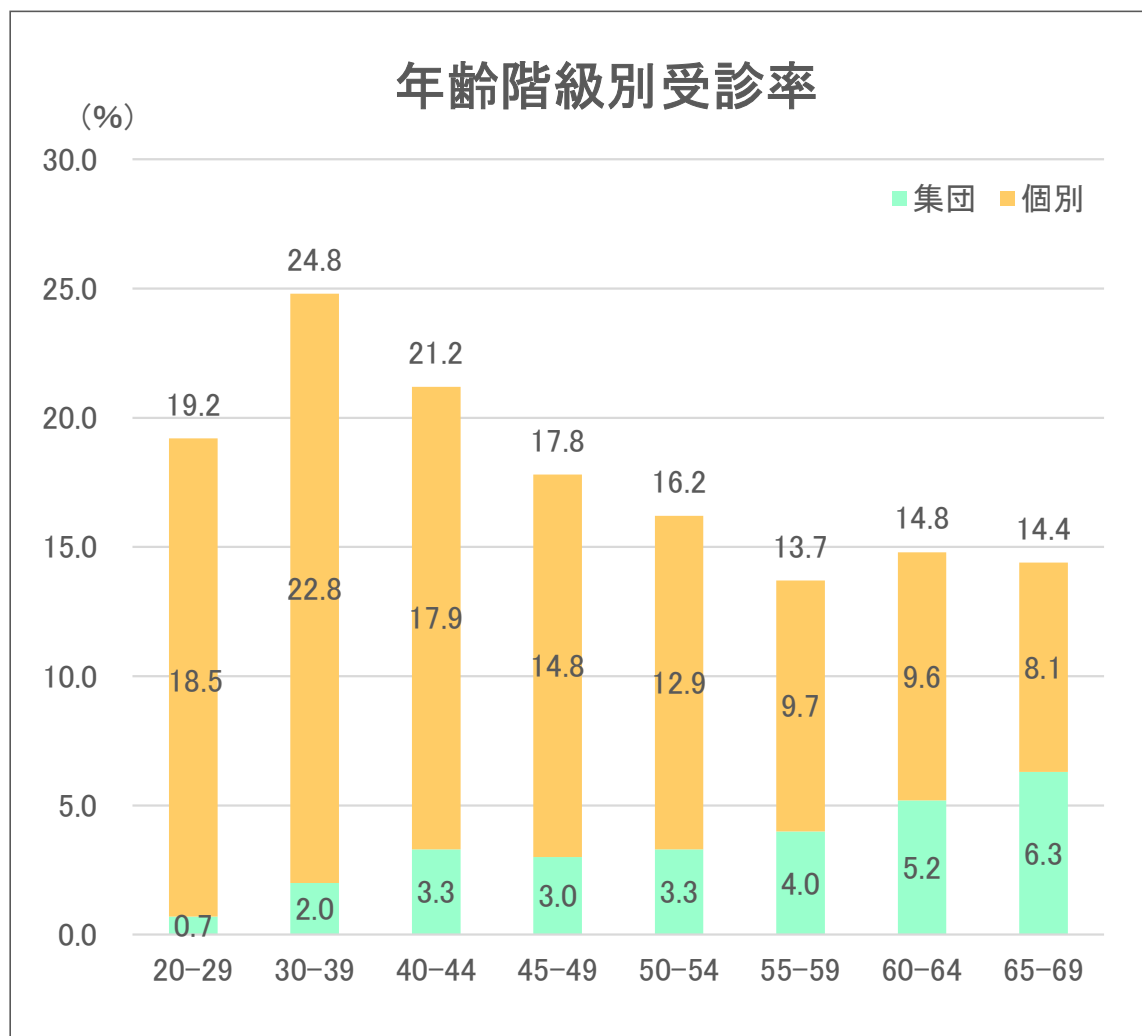
(20-69歳)	H30	R1	R2	R3	R4
集団	10,324	9,882	5,452	7,521	7,566
個別	32,416	31,625	30,731	30,359	29,260
合計	42,740	41,507	36,183	37,880	36,826

【参考】

(全年齢)	H30	R1	R2	R3	R4
集団	14,017	13,756	7,774	10,851	10,908
個別	35,832	35,361	34,224	34,151	33,092
合計	49,849	49,117	41,998	45,002	44,000

2)令和4年度年齢階級別受診率

- ▶ 全体の受診率は、30-39歳が最も高く、その後は年齢階級が高くなるにつれ、低くなる傾向が見られた。年齢階級が上がるにつれ、集団検診の割合が増加し、個別検診では低くなる傾向がみられた。



年齢階級	区分	対象者数	受診者数	受診率
20-29	集団	50,409	182	0.7
	個別		4,838	18.5
	計		5,020	19.2
30-39	集団	61,581	697	2.0
	個別		7,332	22.8
	計		8,029	24.8
40-44	集団	37,736	722	3.3
	個別		3,552	17.9
	計		4,274	21.2
45-49	集団	43,242	754	3.0
	個別		3,479	14.8
	計		4,233	17.8
50-54	集団	44,164	850	3.3
	個別		3,092	12.9
	計		3,942	16.2
55-59	集団	42,801	1,011	4.0
	個別		2,303	9.7
	計		3,314	13.7
60-64	集団	46,366	1,417	5.2
	個別		2,473	9.6
	計		3,890	14.8
65-69	集団	50,617	1,933	6.3
	個別		2,191	8.1
	計		4,124	14.4

▶ 3. 令和3年度子宮頸がん検診成績 (20～69歳)

1) 令和3年度子宮頸がん検診成績

					精 検 受 診						精 検 結 果 別 人 数										陽性反応適中度 (G+H+J)/B	がん発見率 (G+H+J)/A	I A 期がん割合 H/G
	区分	受診者数 A	要精検者数 B	要精検率 B/A	あり C	精検受診率 C/B	なし D	精検未受診率 D/B	未把握 E	精検未把握率 E/B	異常なし F	がん G	I A 期がん H	A I S I	C I N 3 J	C I N 2 K	C I N 2 C I N 3 L	C I N 1 M	がん疑い及び 未確定 N	がん以外の 疾患 O			
長 崎 県	集団	7,520	105	1.4	95	90.5	6	5.7	4	3.8	14	1	0	1	10	16	2	43	4	4	11.43	0.16	0.0
	個別	30,359	1,056	3.5	819	77.6	74	7.0	163	15.4	275	12	3	1	66	79	24	250	50	62	7.48	0.26	25.0
	合計	37,879	1,161	3.1	914	78.7	80	6.9	167	14.4	289	13	3	2	76	95	26	293	54	66	7.84	0.24	23.1

【参考】

70歳 以上	集団	3,330	16	0.5	16	100.0	0	0.0	0	0.0	5	2	0	0	1	1	1	4	1	1	18.75	0.09	0.0
	個別	3,787	61	1.6	44	72.1	11	18.0	6	9.8	23	3	1	0	3	1	0	5	5	4	9.84	0.16	33.3
	合計	7,117	77	1.1	60	77.9	11	14.3	6	7.8	28	5	1	0	4	2	1	9	6	5	11.69	0.13	20.0

※陽性反応適中度・がん発見率は、
CIN3以上(頸がん・AIS・CIN3)の合計で算定

※初回受診者：過去3年間（H30・R1・R2）に
受診歴のない者

2)令和3年度子宮頸がん検診成績（20～69歳、初回受診者）（再掲）

					精 検 受 診						精 検 結 果 別 人 数										陽性 反 応 適 中 度 (G+I+J)/B	が ん 発 見 率 (G+I+J)/A	I A 期 が ん 割 合 H/G
区分	受診者数	要精検者数	要精検率		あり	精検受診率	なし	精検未受診率	未把握	精検未把握率	異常なし	が ん	I A 期 が ん	A I S	C I N 3	C I N 2	C I N 2 (	C I N 1	が ん 疑 い 及 び 未 確 定	が ん 以 外 の 疾 患			
	A	B	B/A		C	C/B	D	D/B	E	E/B	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O			
長 崎 県	集団	2,209	63	2.9	58	92.1	4	6.3	1	1.6	6	1	0	1	10	13	2	20	2	3	19.05	0.54	0.0
	個別	14,039	624	4.4	479	76.8	40	6.4	105	16.8	158	9	2	1	47	43	18	134	33	36	9.13	0.41	22.2
	合計	16,248	687	4.2	537	78.2	44	6.4	106	15.4	164	10	2	2	57	56	20	154	35	39	10.04	0.42	20.0

【参考】

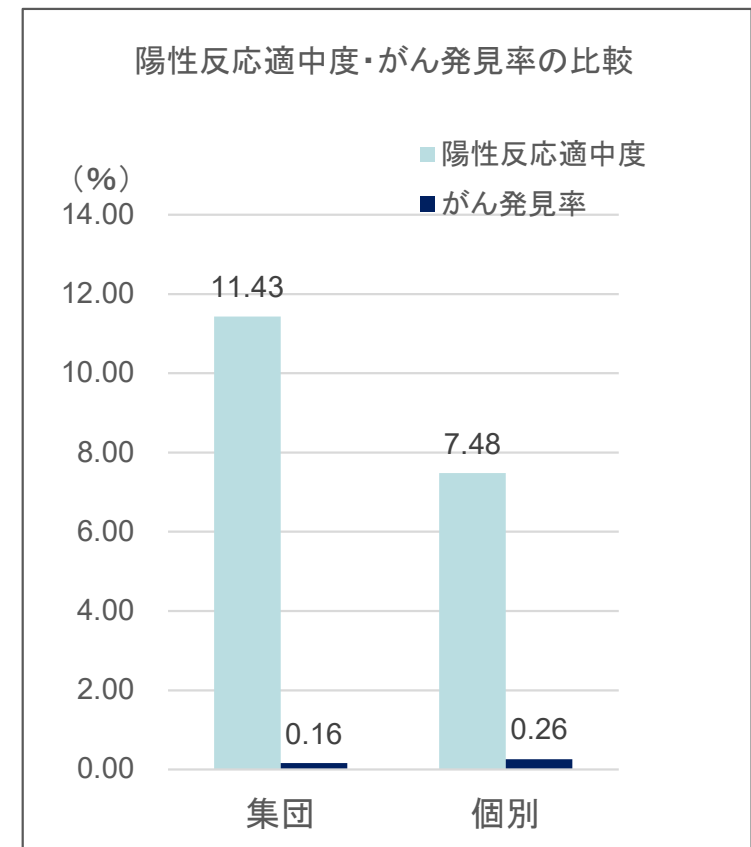
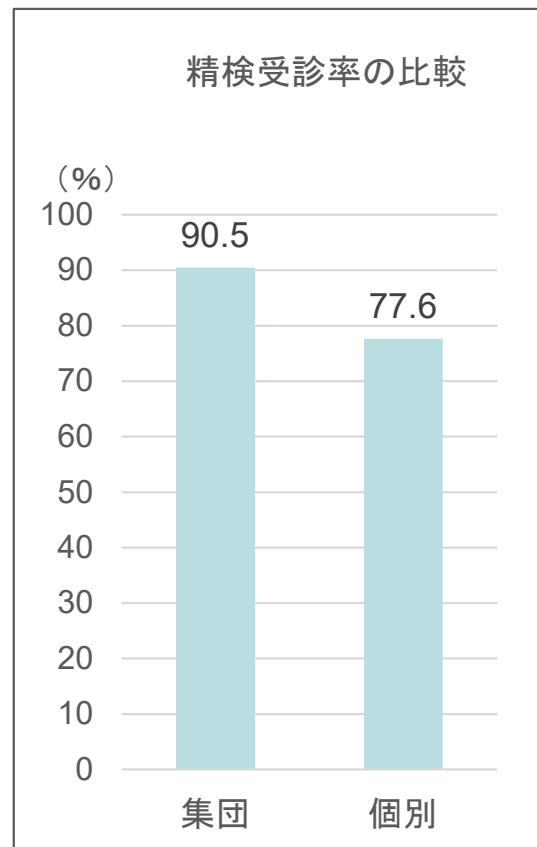
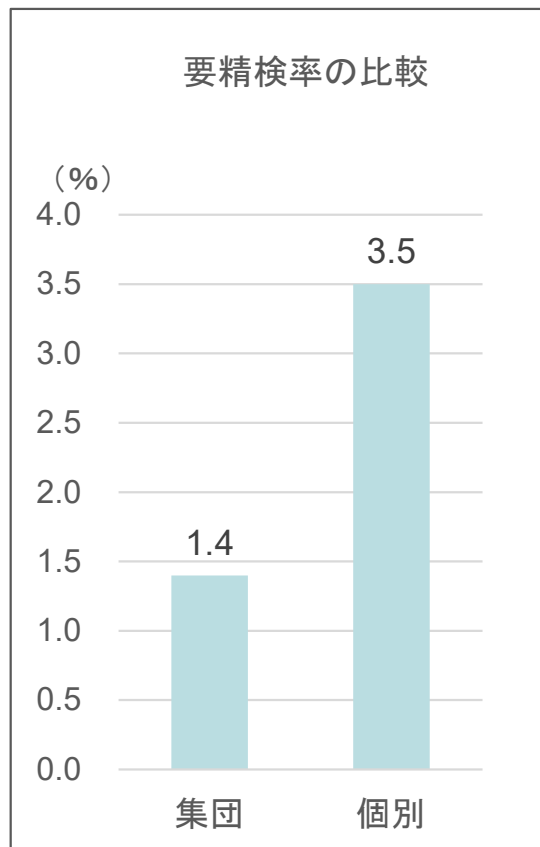
70歳 以上	集団	440	6	1.4	6	100.0	0	0.0	0	0.0	2	2	0	0	0	1	1	0	0	0	33.33	0.45	0.0
	個別	1,257	28	2.2	22	78.6	4	14.3	2	7.1	10	2	0	0	3	0	0	2	3	2	17.86	0.40	0.0
	合計	1,697	34	2.0	28	82.4	4	11.8	2	5.9	12	4	0	0	3	1	1	2	3	2	20.59	0.41	0.0

※陽性反応適中度・がん発見率は、
CIN3以上（頸がん・AIS・CIN3）の合計で算定

4)プロセス指標の**集団と個別**の比較(20～69歳)

- ▶ 要精検率は、集団より個別が高く、精検受診率は個別より集団が高かった。
陽性反応適中度は個別より集団が高く、がん発見率は集団より個別が高かった。

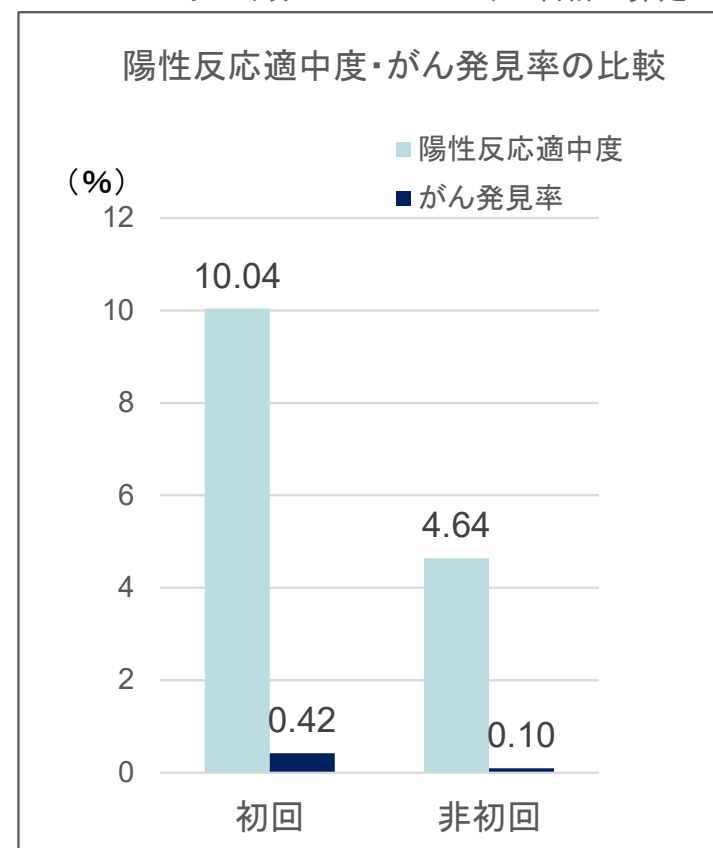
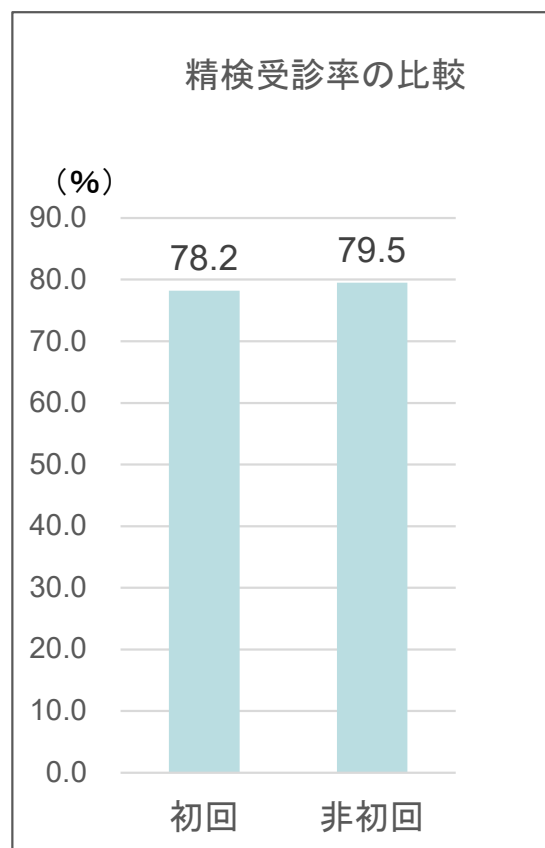
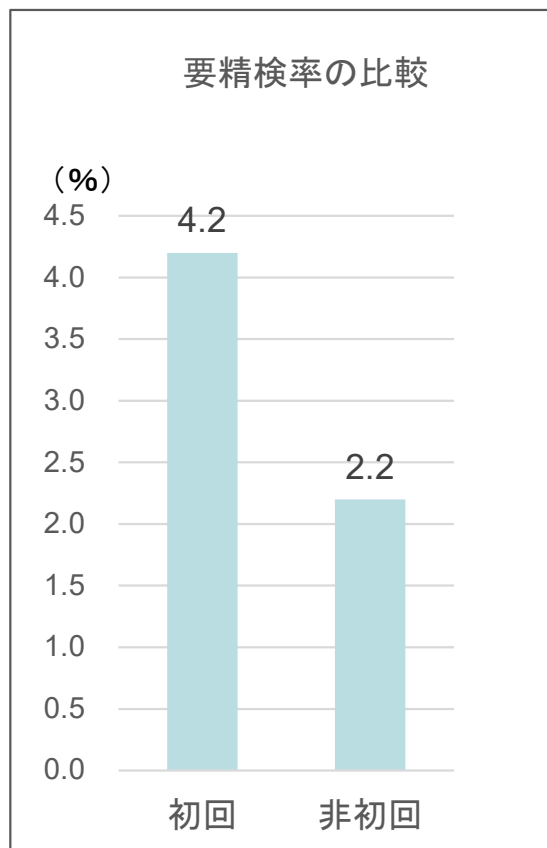
※陽性反応適中度・がん発見率は、
CIN3以上(頸がん・AIS・CIN3)の合計で算定



5)プロセス指標の受診歴別の比較(20～69歳)

- ▶ 要精検率は非初回より初回が高く、精検受診率は大きな差はなかった。
陽性反応適中度、がん発見率は非初回よりも初回が高かった。

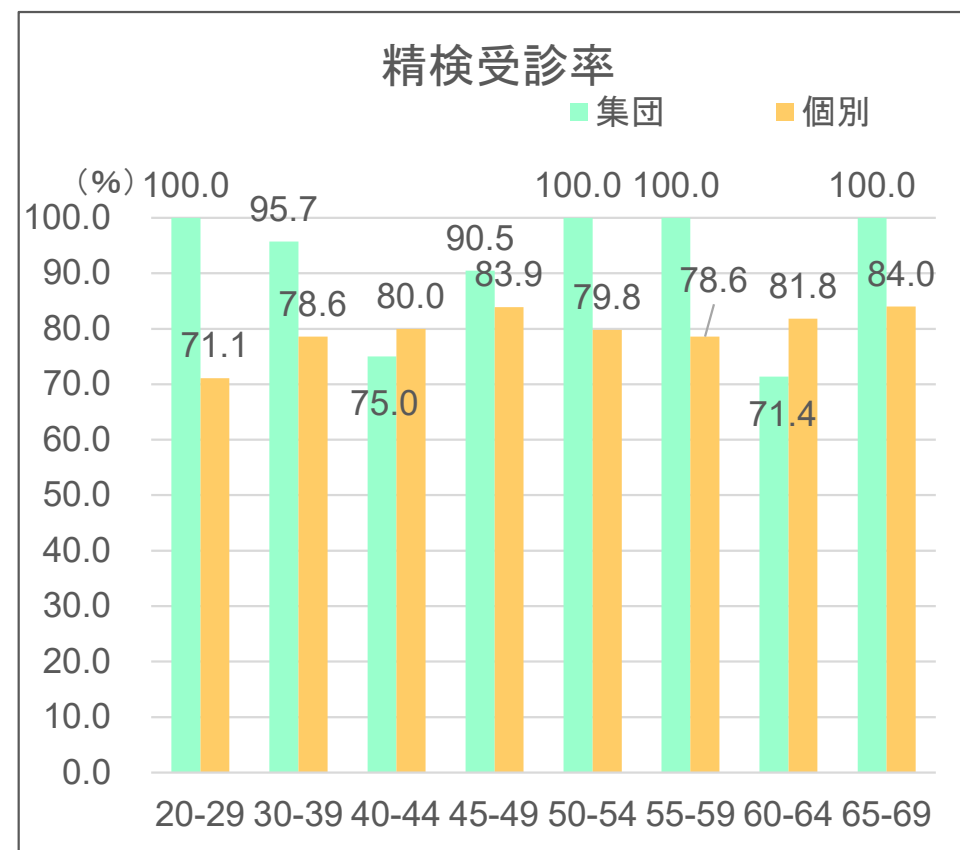
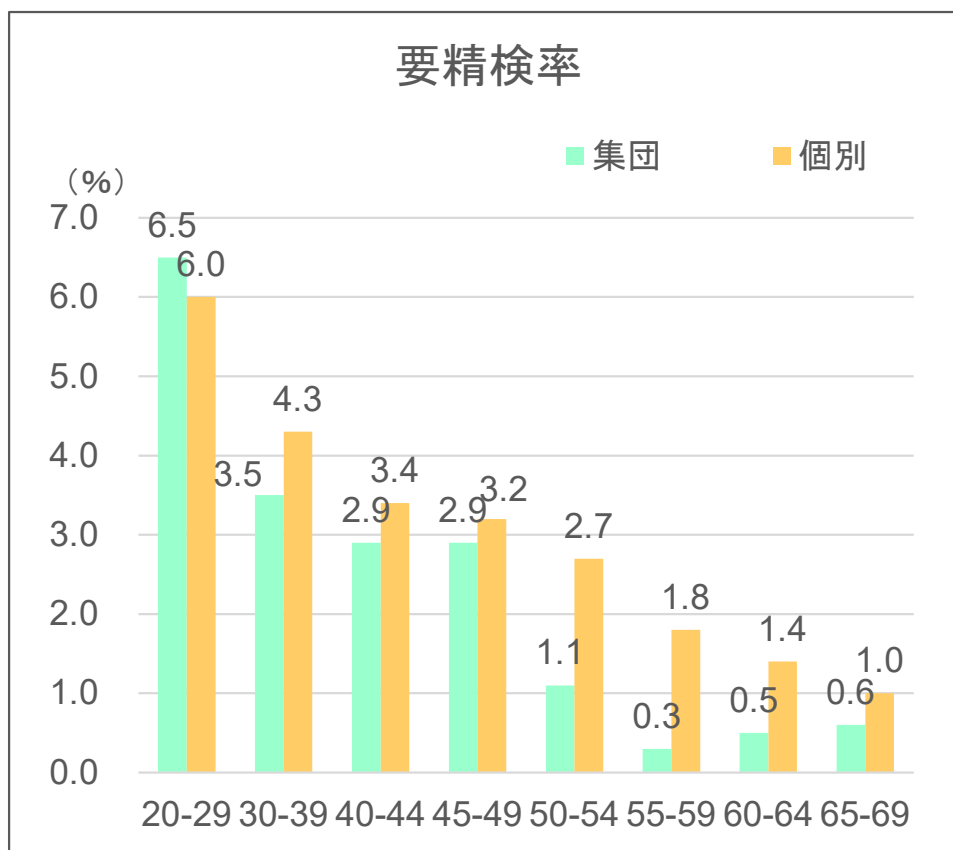
※陽性反応適中度・がん発見率は、
CIN3以上(頸がん・AIS・CIN3)の合計で算定



6) 年齢階級別の比較

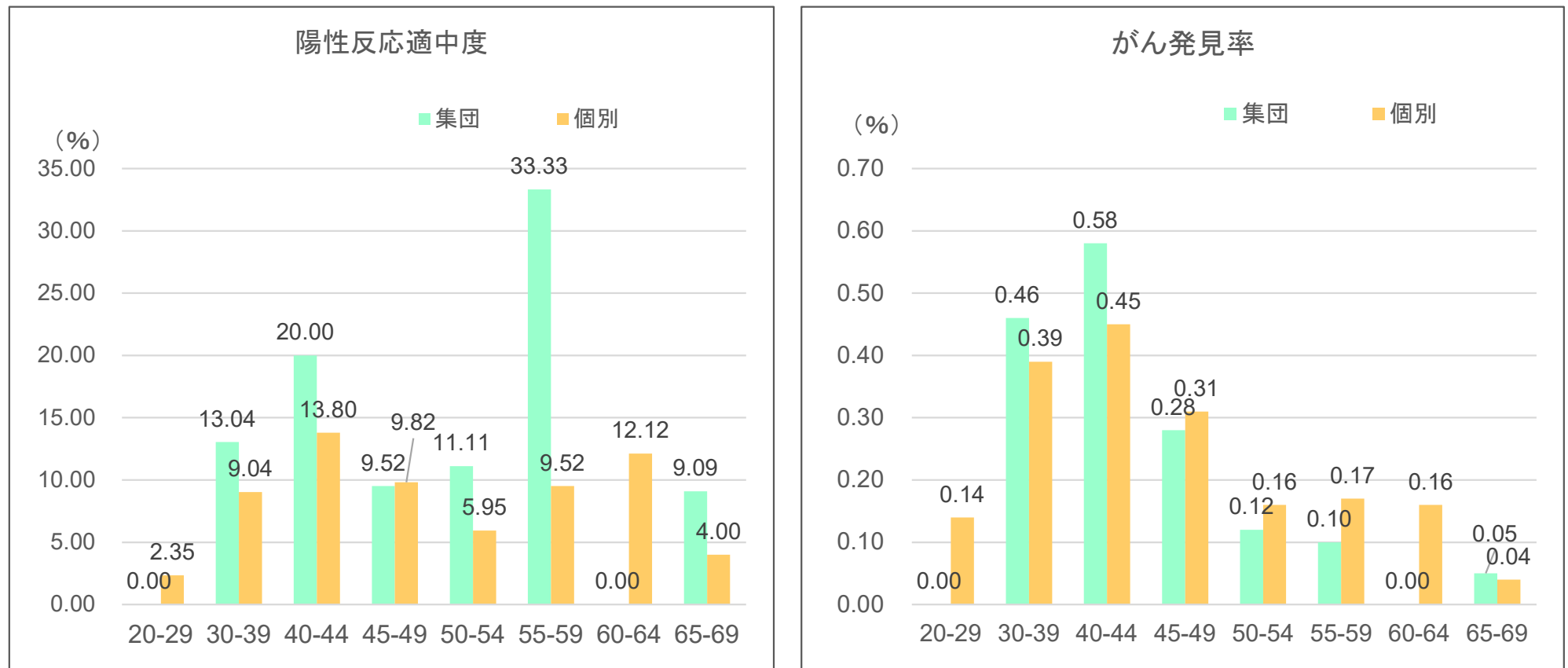
(要精検率・精検受診率)

- ▶ 要精検率は、集団・個別ともに、年齢階級が上昇するにつれて低くなる傾向がみられた。
精検受診率は、ばらつきが大きかった。



(陽性反応適中度・がん発見率)

▶ 陽性反応適中度とがん発見率は、ばらつきが大きかった。



※陽性反応適中度・がん発見率は、CIN3以上(頸がん・AIS・CIN3)の合計で算定

▶ 4.国の示す事業評価指標値

平成20年に設定
令和5年6月改訂により新基準値へ変更

	胃がん (エックス線)		大腸がん	肺がん (1年間隔)		乳がん (2年間隔)		子宮頸がん		
	2 年間隔	1 年間隔		検診以外 の受診を 考慮	連続受診 を考慮					
対象年齢	50-69歳		40-69歳	40-69歳		40-69歳		20-69歳	20-39歳	40-69歳
算出に用いた感度*	60%以上		60%以上	50%以上		40歳代：60%以上 50歳代：70%以上 60歳以上：80%以上		65%以上		
要精検率	7.1%以下	7.0%以下	6.2%以下	2.0%以下	2.0%以下	6.8%以下	6.8%以下	2.7%以下	4.2%以下	2.0%以下
現在の 許容値	11.0%以下		7.0%以下	3.0%以下		11.0%以下		1.4%以下		
精検受診率	90%以上									
がん発見率*	0.13%以上	0.08%以上	0.16%以上	0.06%以上	0.03%以上	0.38%以上	0.29%以上	0.16%以上	0.18%以上	0.15%以上
現在の 許容値	0.11%以上		0.13%以上	0.03%以上		0.23%以上		0.05%以上		
陽性反応適中度*	1.9%以上	1.1%以上	2.6%以上	3.0%以上	1.6%以上	5.5%以上	4.3%以上	5.9%以上	4.4%以上	7.4%以上
現在の 許容値	1.0%以上		0.19%以上	1.3%以上		2.5%以上		4.0%以上		
非初回受診者の 2年連続受診者割合**						30%		40%		

CIN3以上・頸がん・AIS・CIN3

CIN3以上：頸がん,AIS,CIN3

*子宮頸がんはCIN3以上に対する値

**国民生活基礎調査から算出したおおよその現状の値

子宮頸がん指標²³

▶ 5. 子宮頸がん検診市町別成績

1) 令和4年度市町別受診率

● 受診率 = (R4年度受診者 + R3年度受診者 - 2年連続受診者) / 対象者数

● 目的: がん検診の対象者のうち、実際の受診者の割合

● 受診率は高いことが望ましい

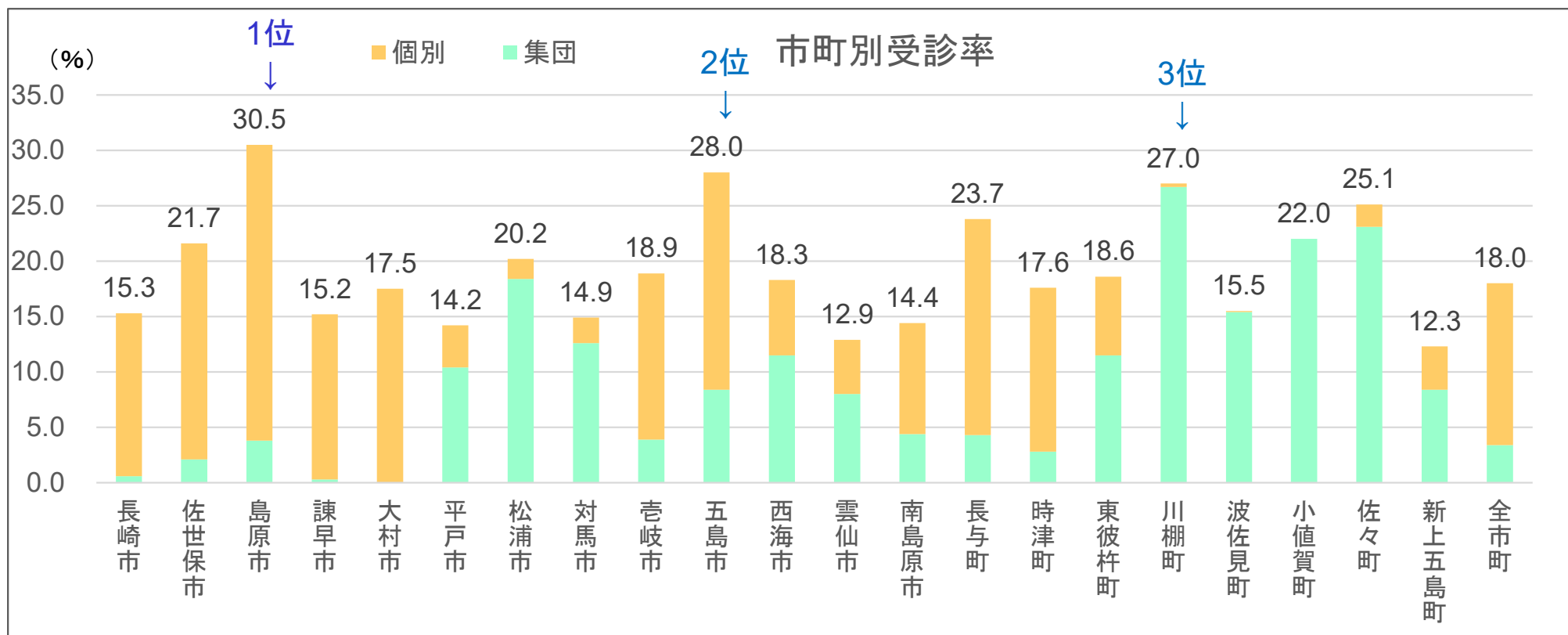
● 低い場合に考えられる原因

・ 受診勧奨が不十分

このデータは市町が地域のがん検診として実施した分のみ計上。

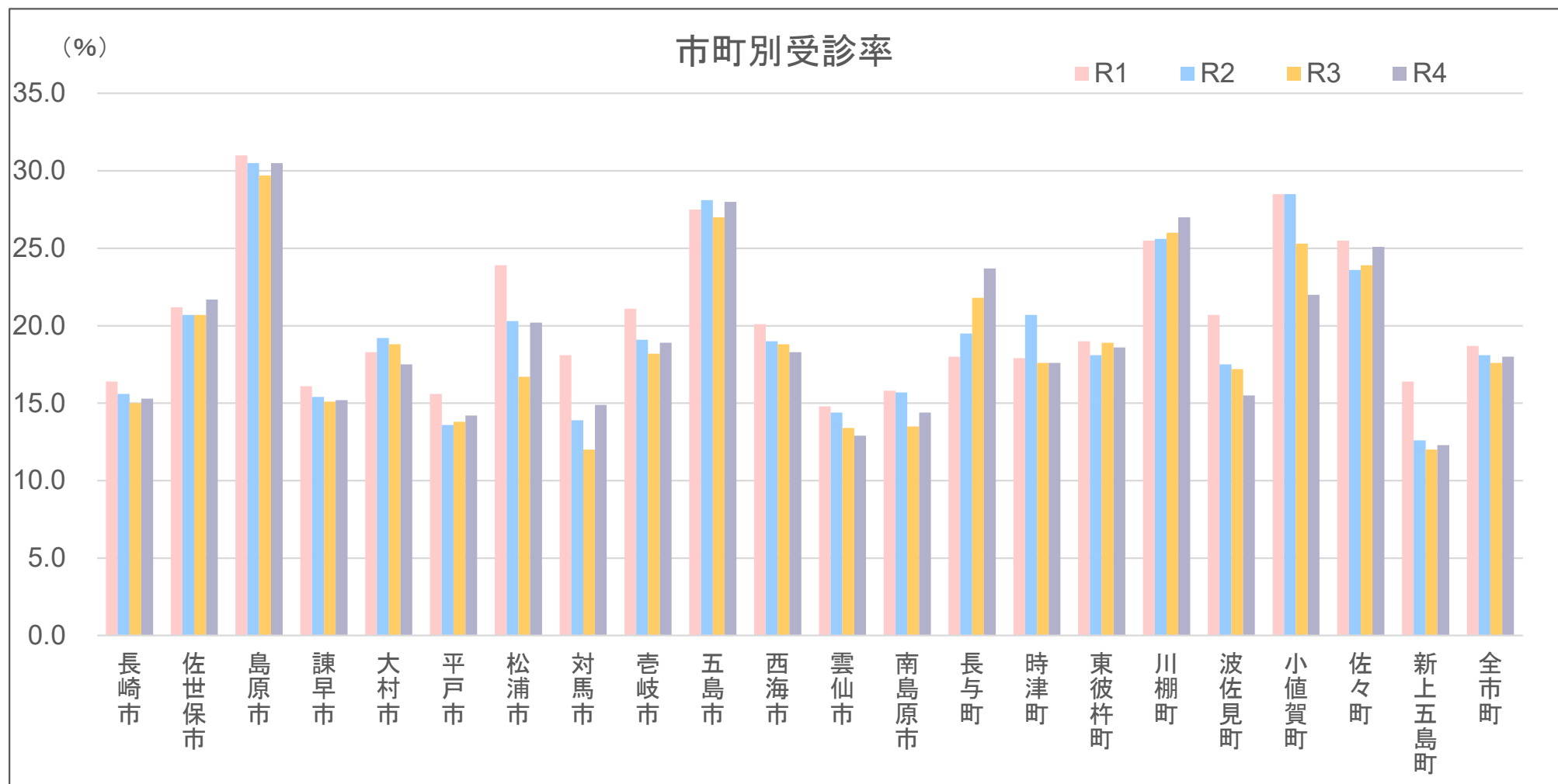
職域における受診者数は含まれていないことから、単純に比較することはできない。

受診率は、10%台～20%台が多く占め、県全体として18%であった。



3) 年度別市町別受診率

- 多くの市町で低下傾向にある
- 4年連続上昇した市町: 長与町・川棚町

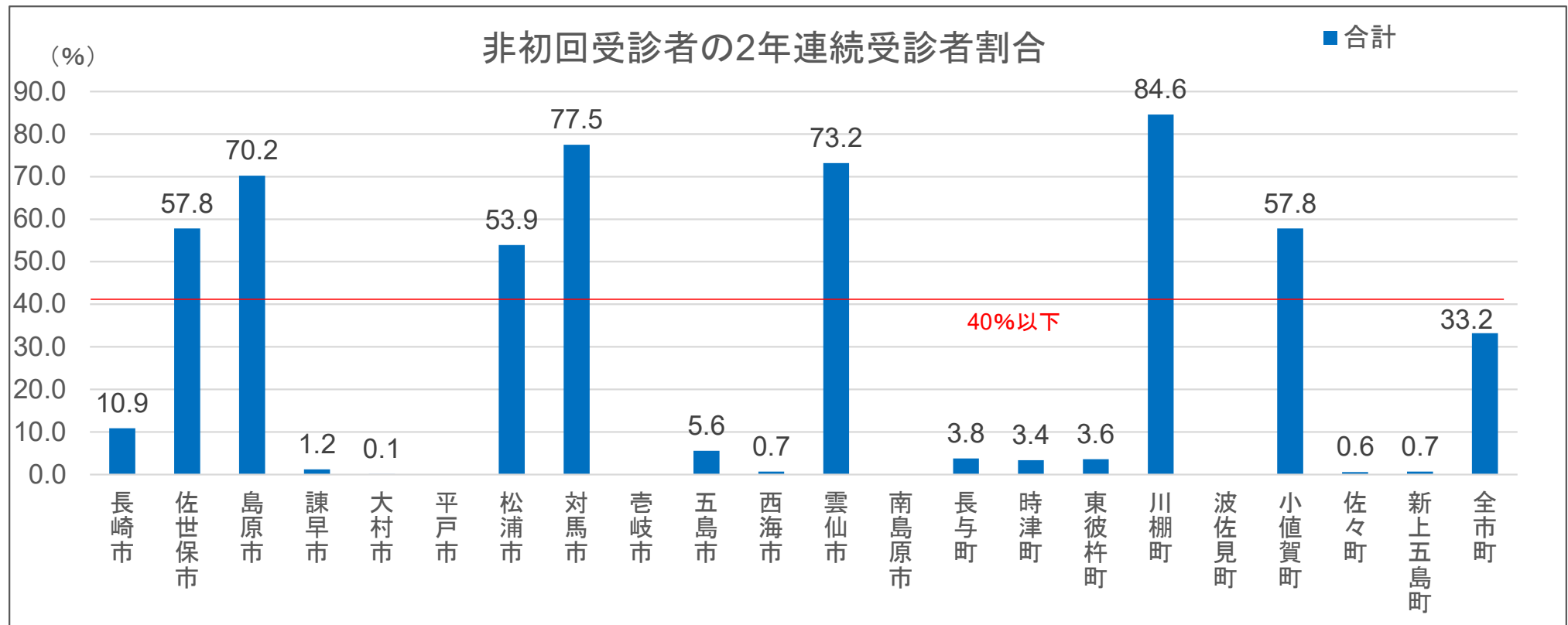


2)令和4年度市町別非初回受診者の2年連続受診者割合

- 非初回受診者における2年連続受診者割合
＝2年連続受診者数／非初回受診者数
- 非初回受診者：過去3年間に受診歴のある者
- 2年連続受診者：2年連続(R3とR4)して受診した者
- 基準値：40%以下〔20-69歳〕

受診間隔は、「隔年(前年度未受診者・偶数年齢など)」、「毎年受診可」とするなど、市町により差がみられる。

受診間隔を「毎年受診可」としている市町では、2年連続受診者が半数以上を占めている。



4)令和3年度要精検率

●要精検者数／検診受診者数

●目的:精密検査の対象者が適切に選ばれているか

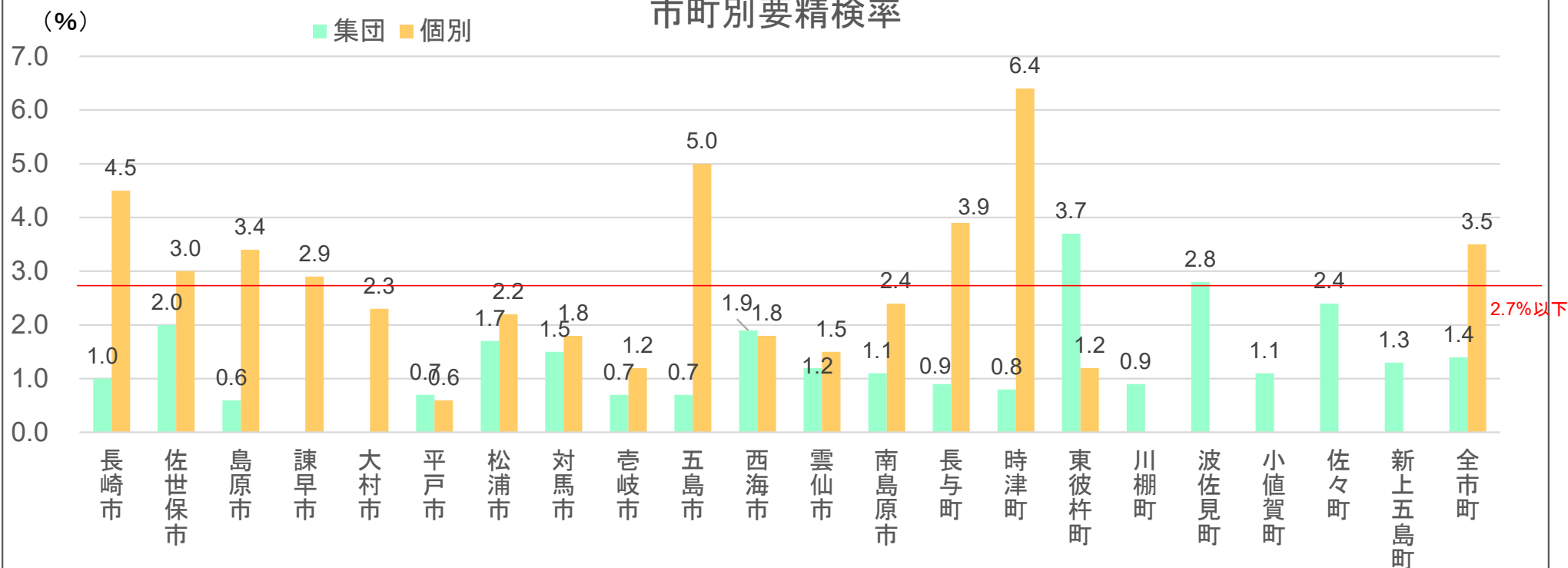
●基準値: 2.7%以下〔20-69歳〕

●値が適正でない場合に考えられる原因

- ・要精検者の計上が適切でない
- ・要精検の判定基準、検査の精度管理が適切でない
- ・有症状者が、がん検診を受診している

・要精検率は、ばらつきがあり、基準値を満たしていない市町がいくつかあった。県全体で見ると、集団は基準値を満たしているが、個別は満たしていない。

市町別要精検率



4)令和3年度精検受診率

●精検受診者数／要精検者数

●目的：要精検者が精密検査を受診したか

●高いほど良い。(精検受診率が100%近くなければ、がん発見率・陽性反応適中度を正しく評価できない)

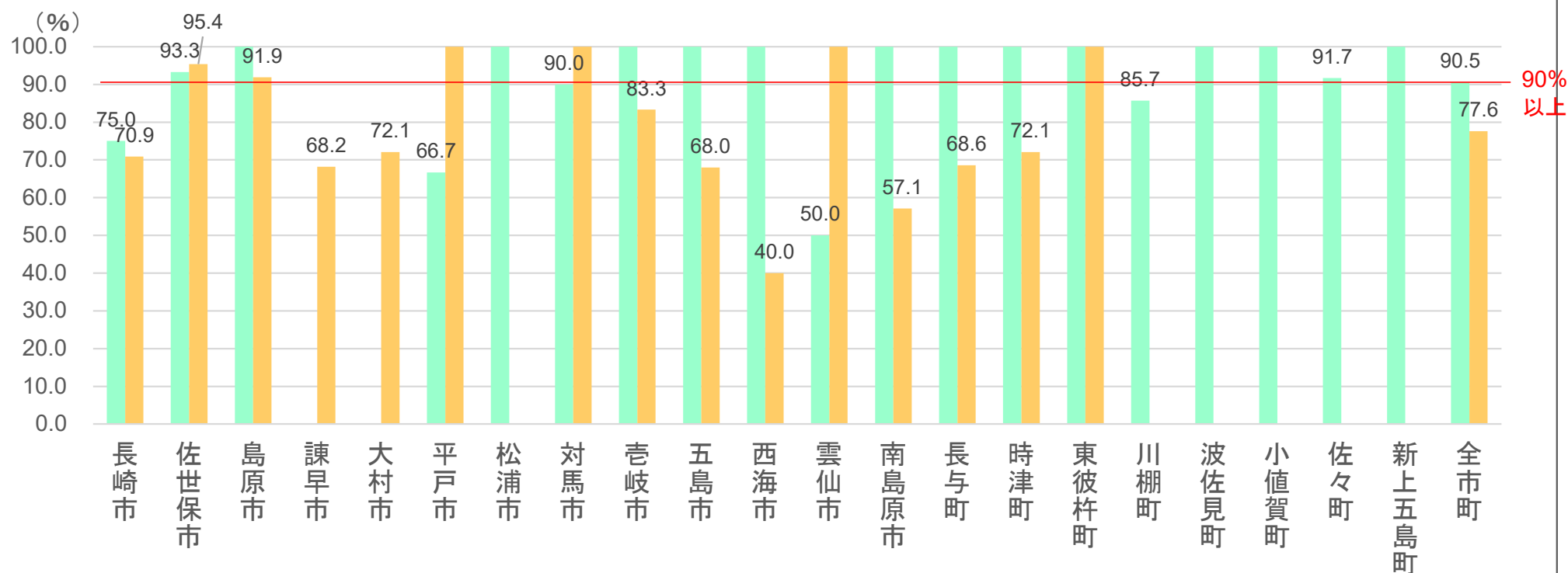
●基準値：90%以上〔20-69歳〕

●低い場合に考えられる原因

- ・精密検査の受診勧奨が不十分
- ・精検受診の有無、精検結果を市町が確実に把握できる体制が不十分

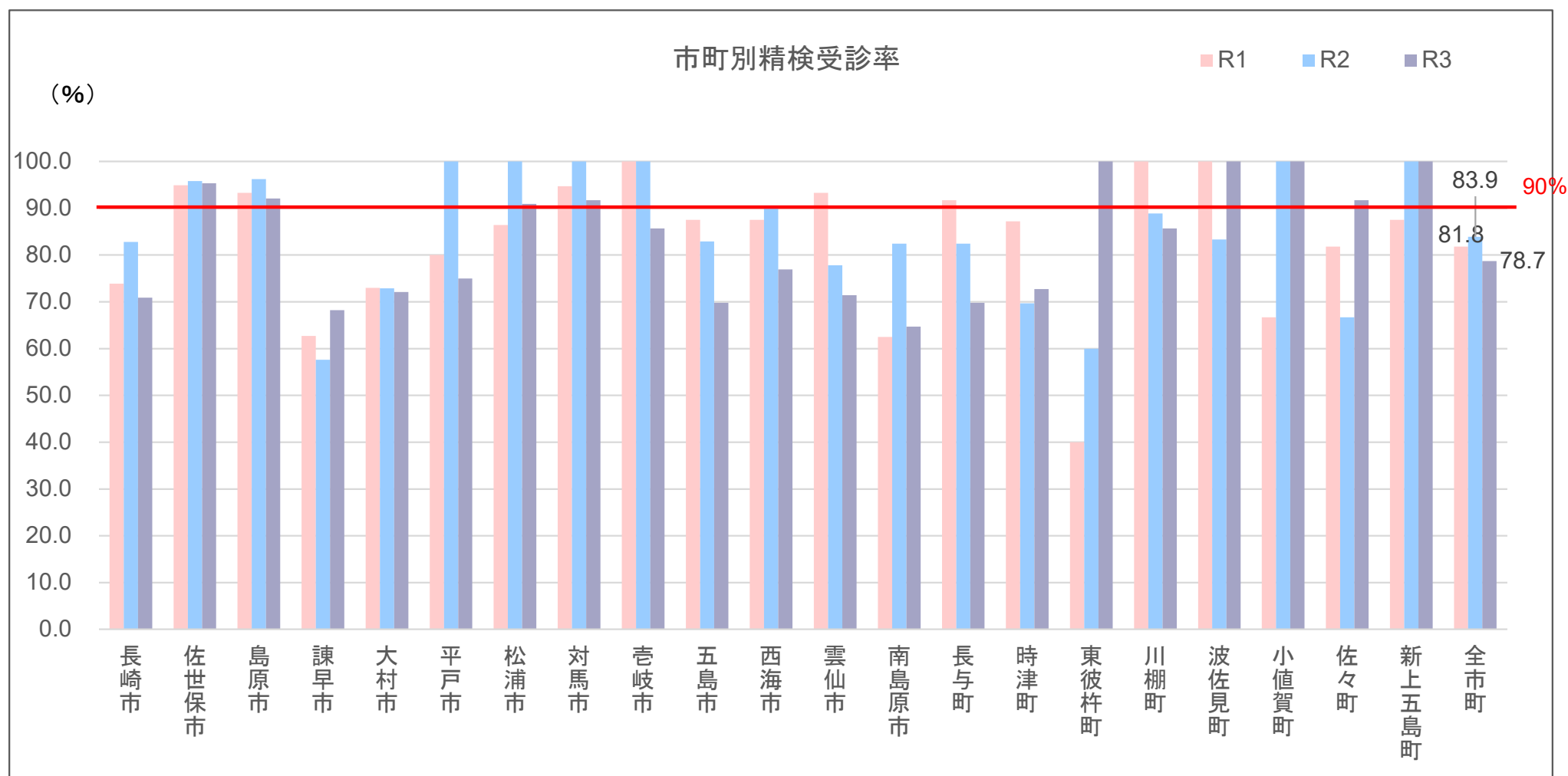
人口規模が異なるので単純に比較できない。
県全体で見ると、集団では基準値を満たしているが、個別は満たしていない。

市町別精検受診率



5) 年度別精検受診率

●3年連続90%以上の市町: 佐世保市・島原市・対馬市



※CIN3以上：頸がん+AIS+CIN3

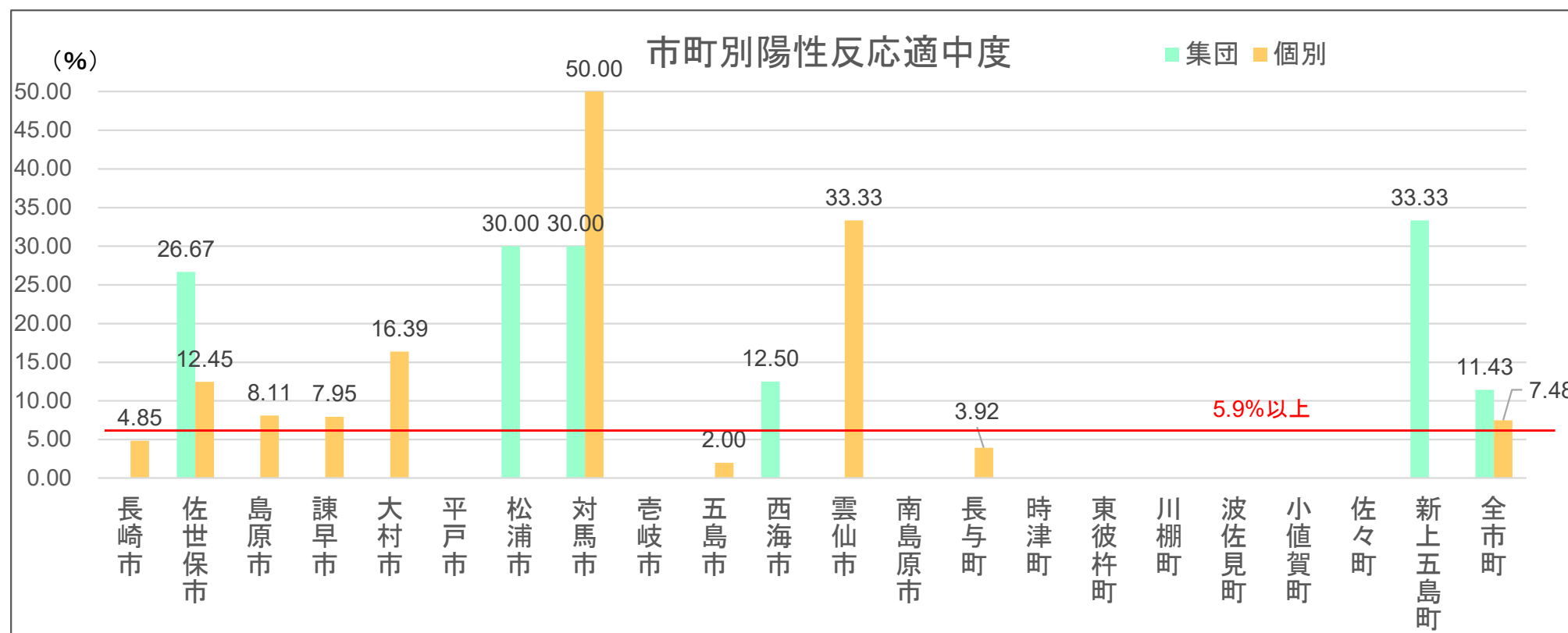
6)令和3年度陽性反応適中度

- CIN3以上であった者の数／要精検者数
- 目的：検診で効率よくがんを発見されたかを測る
- 基準値：5.9%以上〔20-69歳〕

人口規模が異なるので、市町ごとに評価することは困難である。

長崎市・五島市・長与町を除いて、おおむねの市町は基準値を満たしていた。

県全体では集団も個別も基準値を満たしていた。



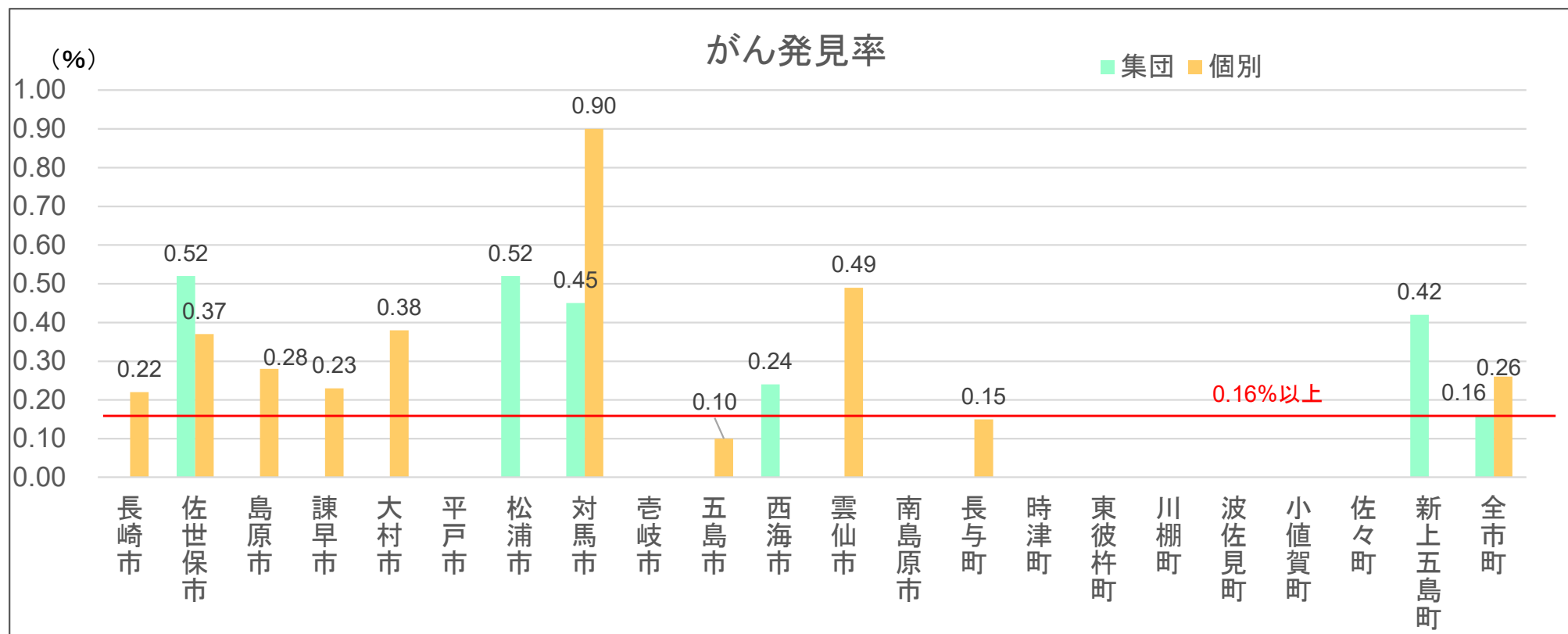
※CIN3以上：頸がん+AIS+CIN3

7)令和3年度がん発見率

- CIN3以上であった者の数／検診受診者数
- 目的:その検診システムにおいて、適切な頻度でがんを発見できたか
- 基準値: 0.16%以上〔20-69歳〕

人口規模が異なるので、市町ごとに評価することは困難である。

五島市・長与町を除き、おおむね市町は基準値を満たしていた。
県全体では集団・個別ともに基準値を満たしていた。



8)令和3年度 偶発症

▶ 長崎県では偶発症は確認されていません。

【検診時もしくは検診後】

区分	全国		長崎県	
	偶発症確認	死亡数 (再掲)	偶発症確認	死亡数 (再掲)
集団	...	...	—	—
個別	3	...	—	—
合計	3	...	—	—

【精密検査時 もしくは 精密検査後】

区分	全国		長崎県	
	偶発症確認	死亡数 (再掲)	偶発症確認	死亡数 (再掲)
集団	3	...	—	—
個別	2	...	—	—
合計	5	...	—	—

6.まとめ

受診率、精検受診率について

- ▶ 受診率は10%台～20%台が多く占め、県全体として18%であった。集団より個別での割合が多い。
精検受診率は、集団は基準値を満たしていたが、個別は満たしていなかった。
精検受診率を向上させるためには、精密検査の受診勧奨を行うことに加えて、精検医療機関からの情報を、市町が適切に把握できるよう体制を整えることが必要である。

要精検率について

- ▶ 各市町、検診形態（集団、個別）によりばらつきがあるが、要精検率は、基準値を満たしている市町が多い。県全体で見ると、集団は基準値を満たしているが、個別は満たしていない。

がん発見率、陽性反応適中度について

- ▶ 人口規模が異なるので、市町ごとに評価することは困難であるが、県全体では、がん発見率・陽性反応適中度は、集団も個別も基準値を満たしていた。